

軍事
参考高ノ3

秘

高射兵器重要諸元表

昭和二十年四月
高射兵器監部

1002

○別冊
第一に提出

目次

- 第一表 高射砲主要諸元表
- 第二表 機關砲主要諸元表
- 第三表 探照燈主要諸元表
- 第四表 超短波標定機主要諸元表
- 第五表 電波警戒機主要諸元表
- 第六表 防空氣球主要諸元表
- 第七表 八纏打上筒ノ性能

高射砲主要諸元表

1004

1005

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

第三表

探照燈主要諸元表																	
區分種類																	
九三式一米五十糎																	
一式一米五十糎																	
二																	
米																	
機	光	射	量	重	發	電	機	運	界	射	原	送	孤	照	反	光	區
全	全	全	發	離	射	電	機	高	方	俯	仰	電	光	明	射	源	分
高	幅	長	車	隔	光	機	出	低	向	角	角	離	壓	離	力	力	類
二四〇〇耗	一五八〇耗	二三八〇耗	五八〇〇耗	一二五・五耗	一〇〇〇耗	一八・二五「キロワット」	九〇度ニ付六秒	全周ニ付二五秒	同上	二〇秒	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
二六〇〇耗	一七八〇耗	四四七〇耗	六〇〇〇耗	一二五・五耗	二五〇〇耗(車台共)	三二「キロワット」	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
三二〇〇耗	二二八〇耗	四六七〇耗	二七〇〇耗	一二五・五耗	三五〇〇耗(車台共)	三七「キロワット」	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

第五表

考 備	電波警戒機乙 (船舶用)	電波警戒機乙 (野戰用)	電波警戒機乙 (移動用)	電波警戒機乙 (固定用)	超短波警戒機乙 (要地用)	甲機戒警電波短超				機 種	區 分	電波警戒機主要諸元表	摘 要
						三(二〇)「ワット」	一〇(二〇)「ワット」	一〇〇「ワット」	四〇〇「ワット」				
一、警戒機乙ノ警戒範圍ハ目標ノ種類高度障地ノ標高等ニ依リ差異アリ本表ニ示ス數字ハ標高約 二、警戒機乙ノ警戒範圍ハ目標ノ種類高度障地ノ標高等ニ依リ差異アリ本表ニ示ス數字ハ標高約 三、警戒機乙ノ警戒範圍ハ目標ノ種類高度障地ノ標高等ニ依リ差異アリ本表ニ示ス數字ハ標高約 四、警戒機乙ノ警戒範圍ハ目標ノ種類高度障地ノ標高等ニ依リ差異アリ本表ニ示ス數字ハ標高約	(五〇)	(五〇)	(八〇)	(八〇)	(八〇)	一〇	二〇	一〇〇	四〇〇	「キロワット」 (送信出力)	周波数 (波長) 「メガサイクル」 (米)	「キロワットアンペア」 (所要電力)	一送信機四受信機一組トス
	約一一〇 (二、七米)	約一〇〇 (三米)	約一〇〇 (三米)	六八七、七六八〇ノ内一	四〇一六〇ノ内一 (二MC毎偏数)	四〇 (六六七) 一六六七 (四立)	可能範圍 四〇 (六六七) 一六六七 (四立)	特三、四〇四六、五四六六ノ内一	四、五 (六六) 一六三 (四七) ノ内一 (二MC毎 奇数)	「キロワット」 (送信出力)	周波数 (波長) 「メガサイクル」 (米)	「キロワットアンペア」 (所要電力)	一送信機四受信機一組トス
	一五〇 一八 (「デューセル」駆動機 交流送電機)	二〇〇 一七 (發電車)	三〇〇 七、五	三〇〇 一〇	五〇 〇、五	七五 一、〇	一五〇 五〇	三〇〇 一〇〇	三〇〇 一〇〇	「キロワット」 (送信出力)	周波数 (波長) 「メガサイクル」 (米)	「キロワットアンペア」 (所要電力)	一送信機四受信機一組トス
		開設所要時間三時間	自動車 (要スレハ航法機) 積載 式開設所要時間二〇時間										

第六表

防 空 氣 球 主 要 諸 元 表													
機 留 繫	索 留 繫	氣 球				機 留 繫				索 留 繫			
		全 長	本 體 最 大 經 緯 (完 全 膨 脹 時)	本 體 最 大 容 積	重 量	標 準 水 素 填 充 量	標 準 昇 騰 高 度	標 準 徑	切 斷 荷 重	重 量 (1000 米 二 付)	全 長	機 關 馬 力	重 索 鼓 車 (索 共)
卷 索 速 度	三〇 米/分	約 二〇、六 米	約 七、八 米	約 五五〇 立 方 米	約 一九〇 瓩	有 效 浮 力 二〇 立 方 米	約 二七〇 〇 米	約 四、五 瓩	約 一九〇 〇 瓩	約 八〇 瓩	約 六〇〇 〇 米	約 三〇 馬 力	約 一五〇 〇 瓩
	一 二〇 米/分	約 一八、六 米	約 七、〇 米	約 四〇〇 立 方 米	約 二〇〇 瓩	約 三二〇 立 方 米	約 一五〇 〇 米	約 四、五 瓩	約 一九〇 〇 瓩	約 八〇 瓩	約 二〇〇 〇 米	約 二五 馬 力	約 一二〇 〇 瓩
	三〇 米/分	約 一八、六 米	約 七、〇 米	約 四〇〇 立 方 米	約 二〇〇 瓩	約 三二〇 立 方 米	約 一五〇 〇 米	約 四、五 瓩	約 一九〇 〇 瓩	約 八〇 瓩	約 二〇〇 〇 米	約 二五 馬 力	約 一二〇 〇 瓩
	一 二〇 米/分	約 一八、六 米	約 七、〇 米	約 四〇〇 立 方 米	約 二〇〇 瓩	約 三二〇 立 方 米	約 一五〇 〇 米	約 四、五 瓩	約 一九〇 〇 瓩	約 八〇 瓩	約 二〇〇 〇 米	約 二五 馬 力	約 一二〇 〇 瓩

第七表

八糶打上筒ノ性能	區分	用途	口徑	全備重量	彈藥ノ性能															
八糶打上筒ノ性能	明説	阻塞榴彈、阻塞煙彈ヲ打上ゲ低空襲撃敵機ノ攻撃ヲ阻止ス	八。一〇三糶	約二八斤	一、通常十筒ヲ基準トシ集結使用ス 二、敵機ノ狀態、風向、風速、掩護物ノ狀態等ヲ考慮シ彈幕構成ノ空域ヲ決定シ發射時機ヲ適切ナラシム 射角ト開傘高度及水平距離トノ關係左ノ如シ <table border="1"> <tr> <th>射角（度）</th> <th>開傘高度（米）</th> <th>水平距離（米）</th> </tr> <tr> <td>四</td> <td>五四〇</td> <td>一二〇〇</td> </tr> <tr> <td>五</td> <td>七五〇</td> <td>一〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>六</td> <td>八七〇</td> <td>七八〇</td> </tr> <tr> <td>八</td> <td>一〇〇〇</td> <td>四〇〇</td> </tr> </table> 射角四十三度以上ヲミレバ不發トナル	射角（度）	開傘高度（米）	水平距離（米）	四	五四〇	一二〇〇	五	七五〇	一〇〇〇	六	八七〇	七八〇	八	一〇〇〇	四〇〇
		射角（度）	開傘高度（米）	水平距離（米）																
四	五四〇	一二〇〇																		
五	七五〇	一〇〇〇																		
六	八七〇	七八〇																		
八	一〇〇〇	四〇〇																		
區分	分	四式阻塞榴彈	四式阻塞煙彈	全備彈藥量	曳火時間	滯空時間	降下速度													
全備彈藥量	一・三六〇斤	一・四一〇斤	一・七六〇斤	約十秒	約五十秒	約七・五米/秒	約八十秒													



第十三號

夕ロキナ^ヲ附近敵軍防禦ニ関スル觀察

昭和九年四月二日
大本營陸軍部

本資料ハ從來調査セシ米軍防禦ノ觀察ヲ基礎トシ「夕」號作戰ニ基テ現地部隊
報告^ノ斟酌^{シテ}審査研究セシモノニシテ内容未ダ研究ノ余地大ニ後日更ニ詳細
ニ資料入手次第周^ニ研究スルフトシ現戰局ニ鑑ミ此種研究資料ノ必要意
ナルヲ認メ不取敢印刷配布セルモノナリ

内容

- 第一 要旨
- 第二 防禦ノ思想及目的
- 第三 防禦ノ爲メ軍隊ノ部署
- 第四 防禦ノ爲メ陣地編成及防禦戰術ノ若干
- 第五 其他
- 第六 教訓ノ若干

第一 要旨

敵は昨年十一月以來約四ヶ月ニ亘リ、タロキ近ノ密林ヲ伐開シ飛行場ヲ中心トシテ堅固な橋頭堡陣地ヲ構築ス

其陣地ハ廣正面、尋常地帯防禦ニ屬シ防禦態ト一般ノ思想ハ多分、陣地内擊、陣地周環厚ニシテ強度ハトシテ骨幹ハ永久陣地ニモ敵防禦ノ目的ハ飛行場守備ニ及該方面地形ノ特性(密林)ト基ヲ特殊な防禦ト觀シ、之ヲ以テ米軍防禦ノ常態ト爲スニ過早ナルヘシ

第二 防禦ノ思想及目的

此陣場守備ヲ目的トスル一種ノ固守防禦ニシテ之カ手段トシテスカト戰車、歩兵部隊(ニヨル逆襲トシテ重視スルモ攻者ノ要滅ハ必スシテ主陣地前ニ於テ實施スル企圖ヲ有スル等)攻者ヲ陣地ニ誘致シ四周ヲ優勢ナルカヲ急攻シ、左側シ後續部隊ト遮断シ機ヲ失セ入戰車部隊ヲ以テ之ヲ去滅セントスルニ在ルカ如ク之ヲ爲主抵抗地帯一部ノ喪失ノ如クハ敢テ急トセザルモ如シ

但シ陣地ノ鎖鑰部ニ對シテハ飽ク迄之ヲ保持セントスル執拗な逆襲ヲ企圖ス、之ヲ以テ附近陣地ノ概要所圖第四ノ如シ

第三章 防禦ノ態ニ依ル部隊ノ部署

師団ハ各聯隊ヲ併列シ各聯隊ハ二大隊ヲ併列、主抵抗地帯ヲ占領セシメ、
一聯隊ヲ聯隊予備トシテ主抵抗地帯ノ後方要線ニ配置ス、
師団ニ屬ス戰車ハ防禦ニ於テ唯一無ニノ逆襲機動部隊ノ思想ニ基キ當
初ハ砲ヲ攻者ノ砲兵射程外ノ位置ニ待機セシメ機ヲ見テ逆襲正面ニ招致ス、
二大隊ハ通常ニ中隊ヲ第一線 一中隊ヲ第二線トシ主抵抗地帯ヲ占領フルヲ
例トス本紙況ノ如ク小兵力ヲ以テ廣正面ヲ防禦セザルヘカナル場合ニ於テハ
第一線中隊ハ數箇ノ支點(小隊又ハ半小隊)ヲ第一線ニ併列配置スルト
共ニ極力重火器ヲ利用スルニ勉メ各支點ノ防禦ハ力ノ骨幹ヲラシムルト共
ニ斜射側射ヲ重視ス、

砲ヲ各支點ハMGヲ中ベトスル防禦戰斗群ガ如ク觀察セラル

三 各支點ハ通常若干ノトーチカヲ中ベトシ之ニ野戰陣地ヲ適宜ニ配置按配シテ全
防禦ノ可能ヲ如ク占領スルト共ニ隣接支點トノハ力協調ニ遺憾ヲラシムル如ク
考慮セラレヌモノ、如シ

得處陳述ニテハ一川隊ハ通常十「ト」有スト

四、現地の報告に依り判断せられ、真方支隊前（飛行場西北側地区）第一線歩兵隊の防禦陣地一例附圖第一ノ如シ

第四 防禦ノ爲メ陣地編成及防禦戰鬥ノ若干

陣地ハ通常主抵抗地帯ト聯隊豫備陣地トニ區分セラレ主抵抗地帯ハ第一線中隊陣地地帯及大隊豫備隊陣地地帯ニ分ル通常第一線陣地地帯前ヲ火制地帯、大隊豫備隊陣地地帯前ヲ逆襲地帯ト稱シアルガ如ク逆襲砲及砲兵ハ二面地帯ニ對シ濃密ナル火力ヲ指向シ得ル如ク配置セラル

二、逆襲砲ノ主力ハ通常大隊豫備隊陣地地帯ニ亘ル地區ニ於テ良好ニ遮蔽セラレタル地區ニ配置シ隨時火力ヲ火制地帯及逆襲地帯ニ指向シ得ル如ク準備ス

但シ大隊逆襲砲ハ主抵抗地帯内各支點内ニ配置セラレアルガ如ク師團砲兵ハ通常師團ニ於テ統一使用スルヲ原則ト認メアルガ如ク是ノ陣地ハ多數ノ豫備陣地ヲ準備シ聯隊豫備隊陣地ノ更ニ後方ニ配置配置セラレ通時火力ヲ集中スル如ク使用セラルガ如シ

然レトモ或ハ一部ノ砲兵ヲ第一線聯隊ニ配属使用セシメアルヤ、公算ナシトセス

★ 砲兵連隊ハ敵攻撃ヲ阻止シ且ツ効メテ陣前ニ於テ火力ヲ以テ襲撃滅スルノ

趣旨ニ依リ編成セラレ教條ノ鐵條細ト地雷地帯トヲ混用重疊シ且
火制地帯ノ後半部ニハ一部ノ輕易ナルト一カヲ配置ス
眞方支隊正面(進行場西北方地區)ノ火制地帯ヲ現地ノ報告ニ基キ判
断セル一例附圖第ニノ如シ
俘虜ノ陳述ニシルカハ河畔敵火制地帯ノ一例附圖第三ノ如シ
五逆襲地帯ハ火制地帯ヲ瀟過シテ侵入セル及者ヲ其戰力ト低下セルニ乘ジ凡
日火力ヲ急襲指向シ戰車部隊ノ逆襲ニヨリ一舉ニニ殲滅セントスルモノニシテ
通常附圖第一ノ如ク特ニ敵ノ後衛部隊ヲ遮断シ防者ノ懷中ニ於テ處
理セントスルヲ強調シアルガ如クエガ爲砲兵及迫撃砲等ヲ主火力ハ常ニ究破
部隊ノ後方遮断ニ指向セルヲ多クシ
奔襲部隊ノ方向ニ勉メテ突破部隊ノ側ヲヨリ^方如ク特ニ後車ノ重火器ヲ
目標トシ戰車ヲ以テエラ蹂躪スルヲ例トス
ハ障碍物ハ各種ノ形狀アルモ概シテ屋根型多ク火制地帯ニ於ケル配置
各障碍物ノ距離、一例附圖第二ノ如シ
セト一カハ木製表及「ペト」製ノ二種ニシテ其ノ強度大ナラザルモ火

地帯ニ在ルハ通常不製ミシテ若干ノ土砂ヲ以テ被覆ス其ノ形狀及
強度附圖第二備考註記ノ如シ各「トーチカ」ノ間隔ハ通常三―五〇米
ナルモノガ不規則ニ配列ス各「トーチカ」及各陣地ハ通常交通壕ヲ
以テ前後左右ニ連絡ス

此ハ「トーチカ」通常三ミテ「トーチカ」一箇置キニ之ヲ配置シタルガ如シ
ハ偽陣地ノ構築ヲ奨励シ時トシテ主抵抗地帯ニ於テモ之ヲ巧ニ配置シテ攻
者ノ之ヲ占領スルヤ四周ヨリ殲滅的火力ヲ指向シ得ル如ク考案ス

第五 其ノ他

敵戦車ハ背後ニ有利鉄線ヲ縛著シアリテ背後ヨリノ肉迫攻撃ヲ
防止シアリ又吸著爆雷ハ敵戦車ニ特殊装置アルガ如ク吸著セザ
レアリ(吸著爆雷ノ機能不良ナルヤ又ハ攻撃法ノ拙劣ナルヤ等研究中)

二敵ハ我が擲弾管ノ射撃ニ對シ相當恐怖ヲ有スルモノノ如シ
三鐵條網ハ雷氣的近接警報装置ヲ十分活用シタルハ注意ヲ要ス

第六 教訓ノ若干

襲作戦ノ突破不成功ナリシ原因ノ主ナルモノト認メラルモ、次ノ如シ
砲兵及航空兵力ノ不足ニ基キ敵陣地全縦深ヲ同時ニ制壓シ
ヨリシ爲ニ襲地帯ニ於ケル敵ノ逆襲ヲ容易ナラシメタリ
我が攻撃部隊ノ縦深戦力不足シ爲メ敵主抵抗地帯ノ襲突
不可可能ナリシヨル

敵陣地及戦法ニ對スル認識及偵察不十分ニシテ且適時敵火
ヲ制壓スベキ處置ナキ爲メ假令、夜間一部ノ陣地ヲ突破スルモ晝
間猛烈ナル火力ニ壓倒セラレタリ

就中我が近距離戦闘搜索ニ般ニ不十分ニシテ敵陣地ノ障碍物
知ラズシテ攻撃セル部隊アリ之ガ爲メ攻撃間損害ヲ頻々スルニ至ル
對戦車戦闘ニ對スル訓練及處置不十分ニシテ突破部隊ハ敵陣
内ニ於テ多ク戦車ニ蹂躪セラレ其ノ攻撃中心戦力タル重火器ヲ破壊
セラルニ至レルコト

將來考慮スベキ事項

方勢且裝備不十分ナル部隊ヲ以テ攻撃スル場合ニ於テ夜間ノ利
用ハ特ニ著意ヲ要ス敵ハ我が部隊ノ夜間攻撃ニ方キ大ナル抵抗

ヲ行フコトナク後退スルヲ常トス

突破縦深戦力過少ナル場合ニ於テモ突破部隊ニ有力ナル後
方挺進部隊ヲ跟隨セシメ夜間一部ノ陣地ヲ突破スルモ機ヲ失
ヒテ挺進部隊ヲ正面ニ投入シ拂曉以後ノ敵ノ逆襲又ハ火力集
中ヲ妨害スルト共ニ敵防禦ノ根幹タル砲兵又ハ戦軍等ヲ求メテ
肉薄攻撃セシムルハ有利ナリト思考ス

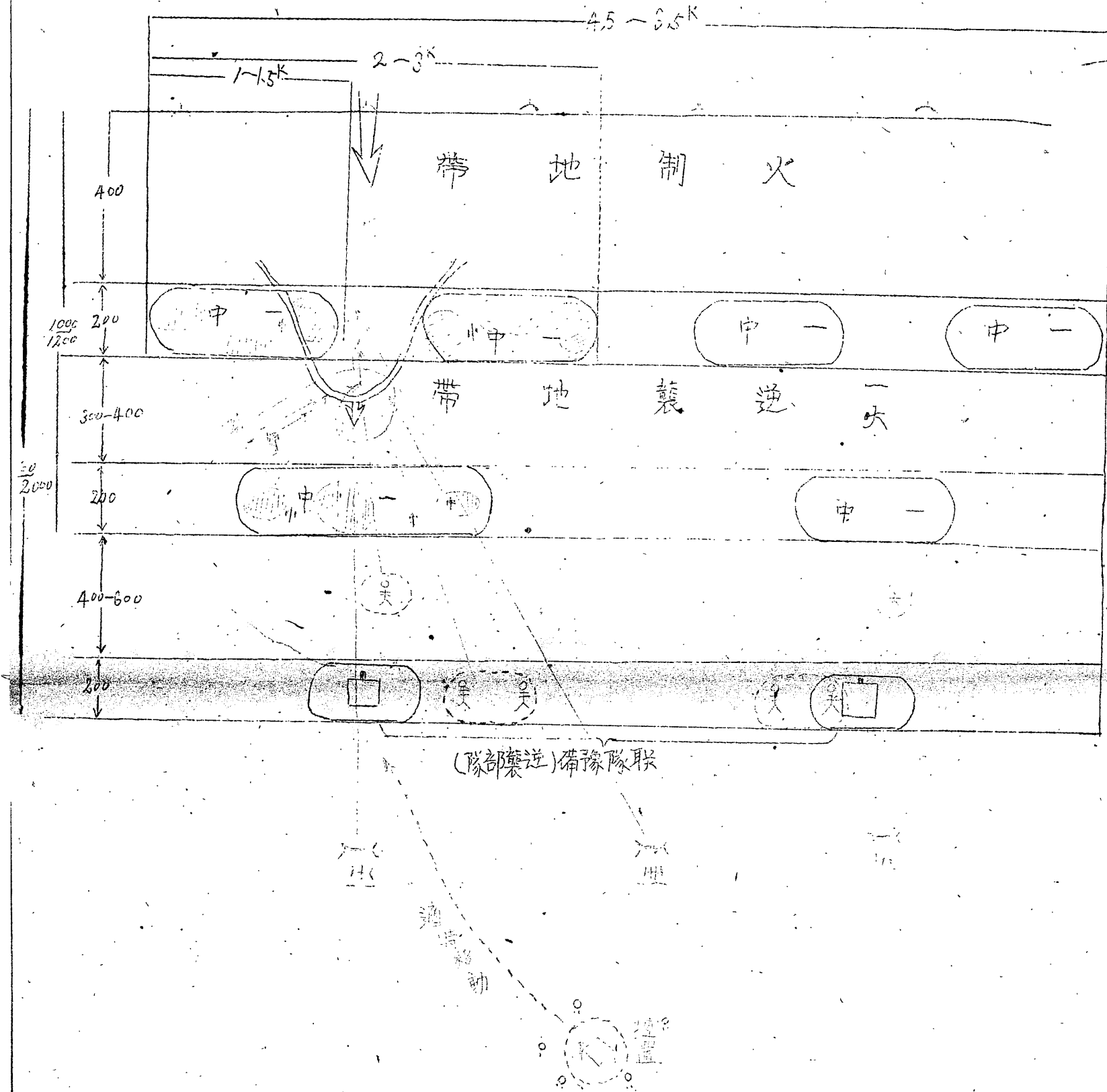
特ニ夜間ノ警戒嚴ナラザルト我が果敢ナル遊撃挺進部隊ノ行動
ニ畏怖シアル敵對シ廣範圍ニ亘ル後方擾亂ハ突破部隊ノ正面
攻撃ト共ニ效果甚大ナリト確信ス

蓋此ノ種戦法ハ劣勢且火力裝備不足セル國軍ニ殘サレタル只
敵陣地縦深同時制壓ノ良法タレバナリ
突破ハ勉メテ數點ヨリ突破シ敵後方戦力ヲ一方ニ誘致シ、一撃ニ
我が後方部隊ヲ投入シテ主抵抗地帯ノ全縦深ヲ突破スルヲ可トス

又突破正面ハ極力地形ヲ偵察シ敵弱點特ニ敵戰車ノ行動ヲ
難ナル方面ニ選定スルヲ著意ヲ可トス

例一ノ樂防隊聯軍米

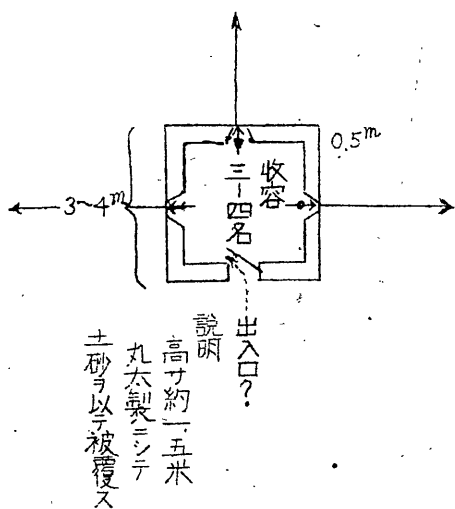
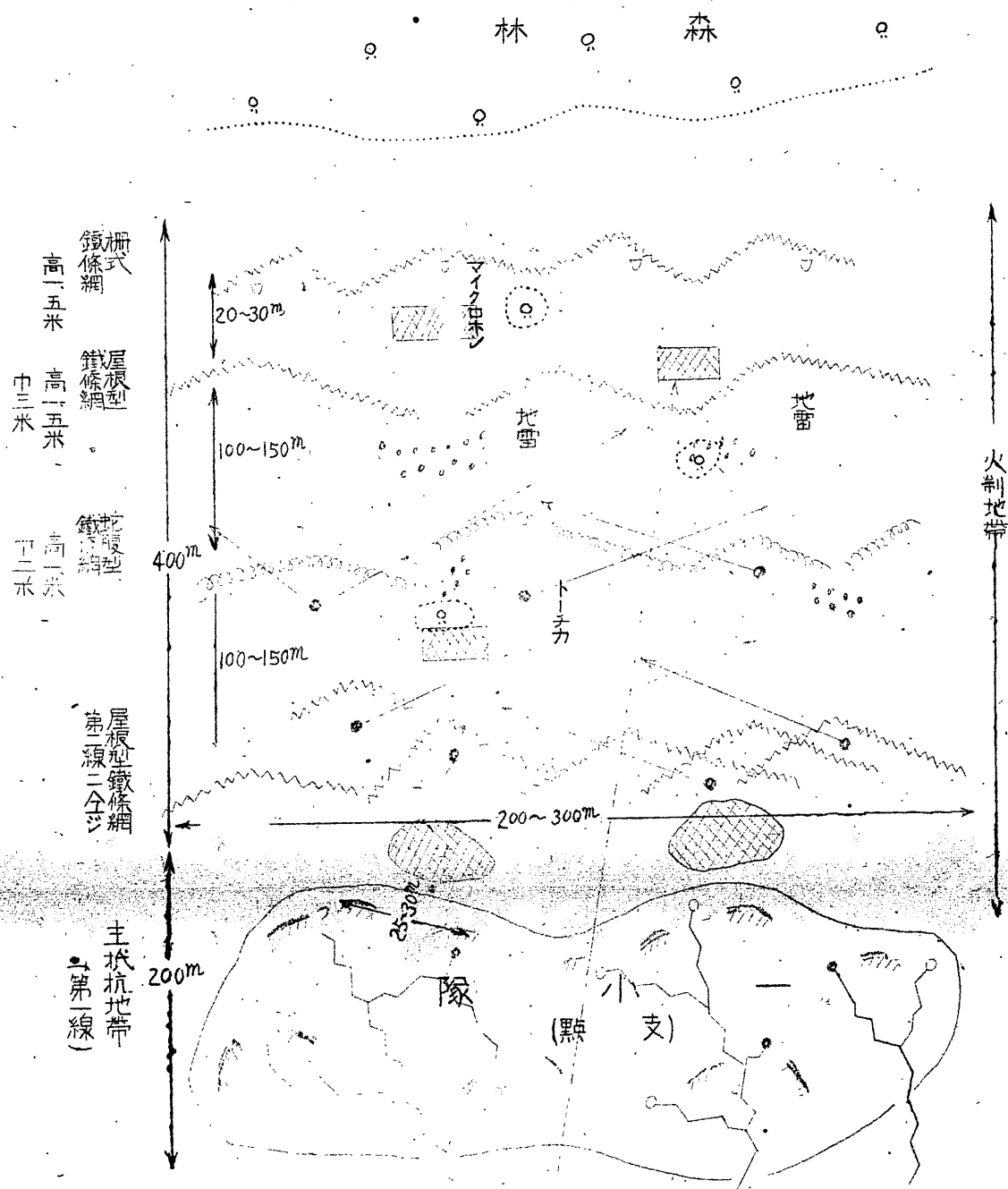
第一圖



- 備考
- 一、諸防抵抗線ハ状況ニ依リ相違ノ縦深ヲ有スルモノナリ
 - 二、火制地帯ニ關シテハ第二圖參照
 - 三、砲兵ハ師団ニ於テ統一運用セラルルニ上テ、如キ廣正面防禦場合ニ於テハ各隊隊ニ配属セラルルコトアルガ如シ
 - 四、逆襲ノ主体戰車ニシテ戰車ハ當初夜者ノ砲兵射撃ハ要點ニ對テ設置セラルルヲ連中トス
 - 五、對戰車砲通常主カヲ三挺抗地帯内ニ配置シ得ル如ク準備シタルモノナリ
 - 六、聯隊迎撃砲ヲ主カハ主抗地帯後方ヨリ聯隊豫備隊地帯ニ亙リ縱深配置ス
 - 七、ハ支點ニシテ通常中ニ乃至四條ノ鉄條網ヲ以テ全周ヲ圍繞ス

火制地帯状況圖

第二圖

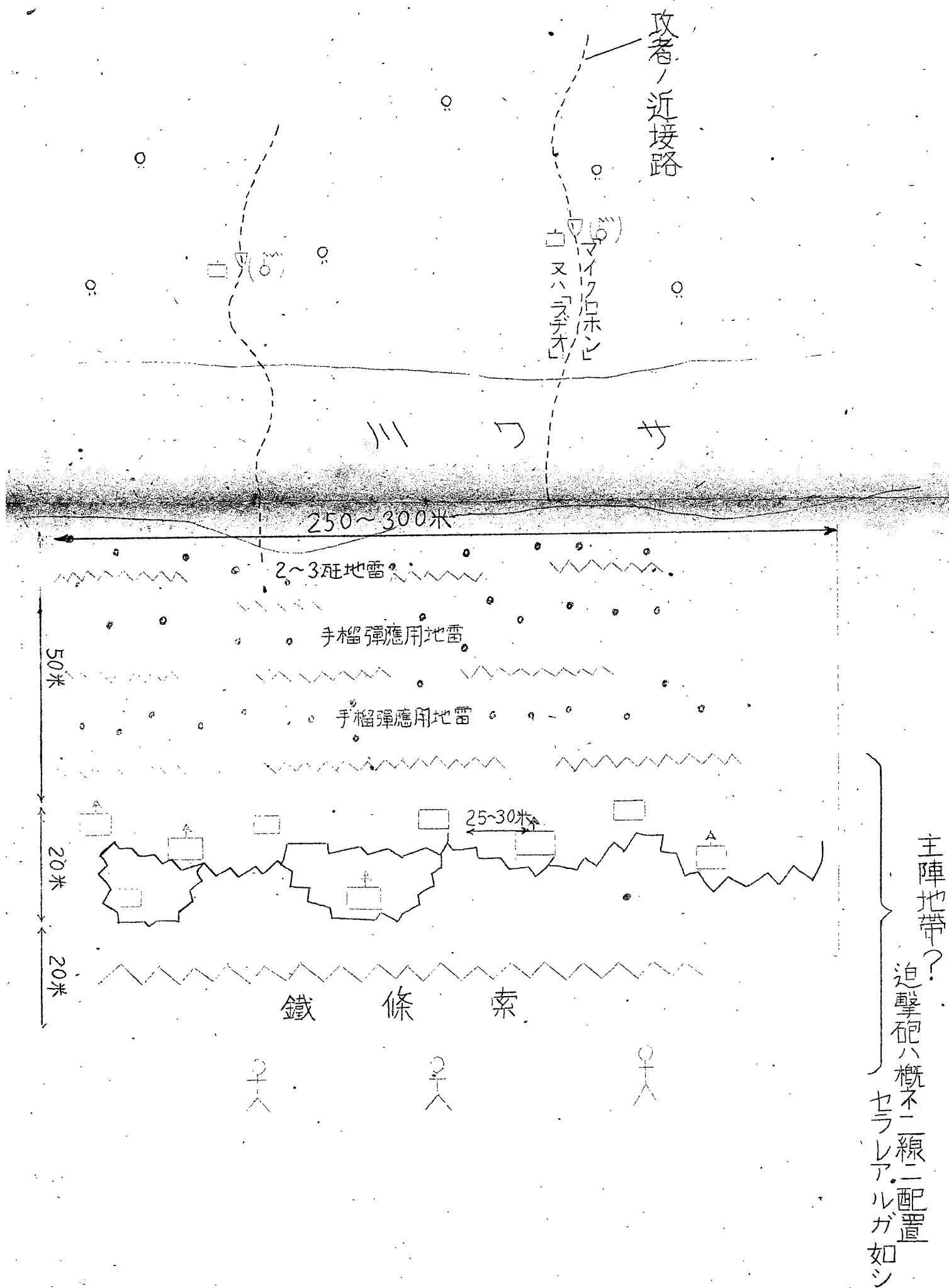


備考

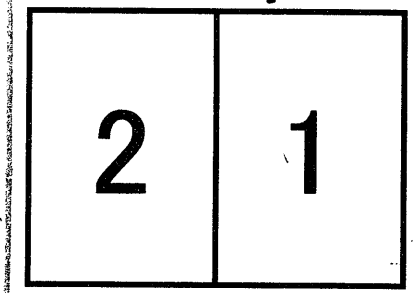
- 一 八砲兵ノ火力準備ヲ球
- 二 八迫撃砲ノ急襲火力準備ヲ球トス
- 三 八木製「トーチカ」ハ「バベ」製「トーチカ」トス
- 四 木製「トーチカ」ノ一例左圖ノ如シ

況狀ノ帶地陣主敵畔河川「ワサ」

附圖第三



分割撮影ターゲット

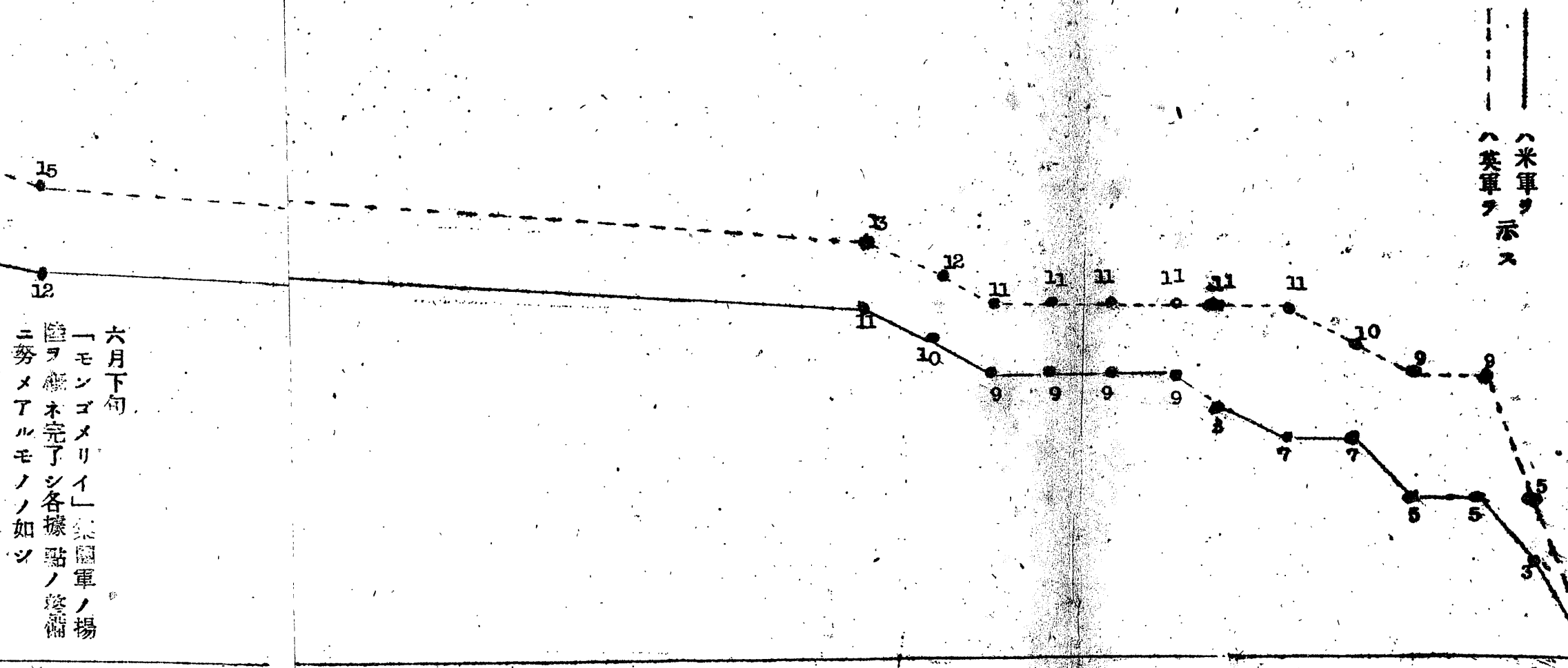
分割した 部 分 の 撮 影 順 序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	欧州第2戦線(北仏作戦)に 於ける兵力集中速度概見表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

歐洲第二戰線（北佛作戦）ニ於テハ兵力集中速度概見表

海軍

20
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0

ハ米軍ヲ
ハ英軍ヲ
示ス



六月下旬
「モンゴメリイ」米軍ノ揚
陸ヲ完了シ各據點ノ整備
ニ努メアルモノ如シ

七月三日
「バットン」軍衆上陸準備
中ナリト

上陸開始

上陸第一週

「コタン」半島横街
「サン・ソウグー」占
領

「コタン」半島横街
全成功

上陸後二週間

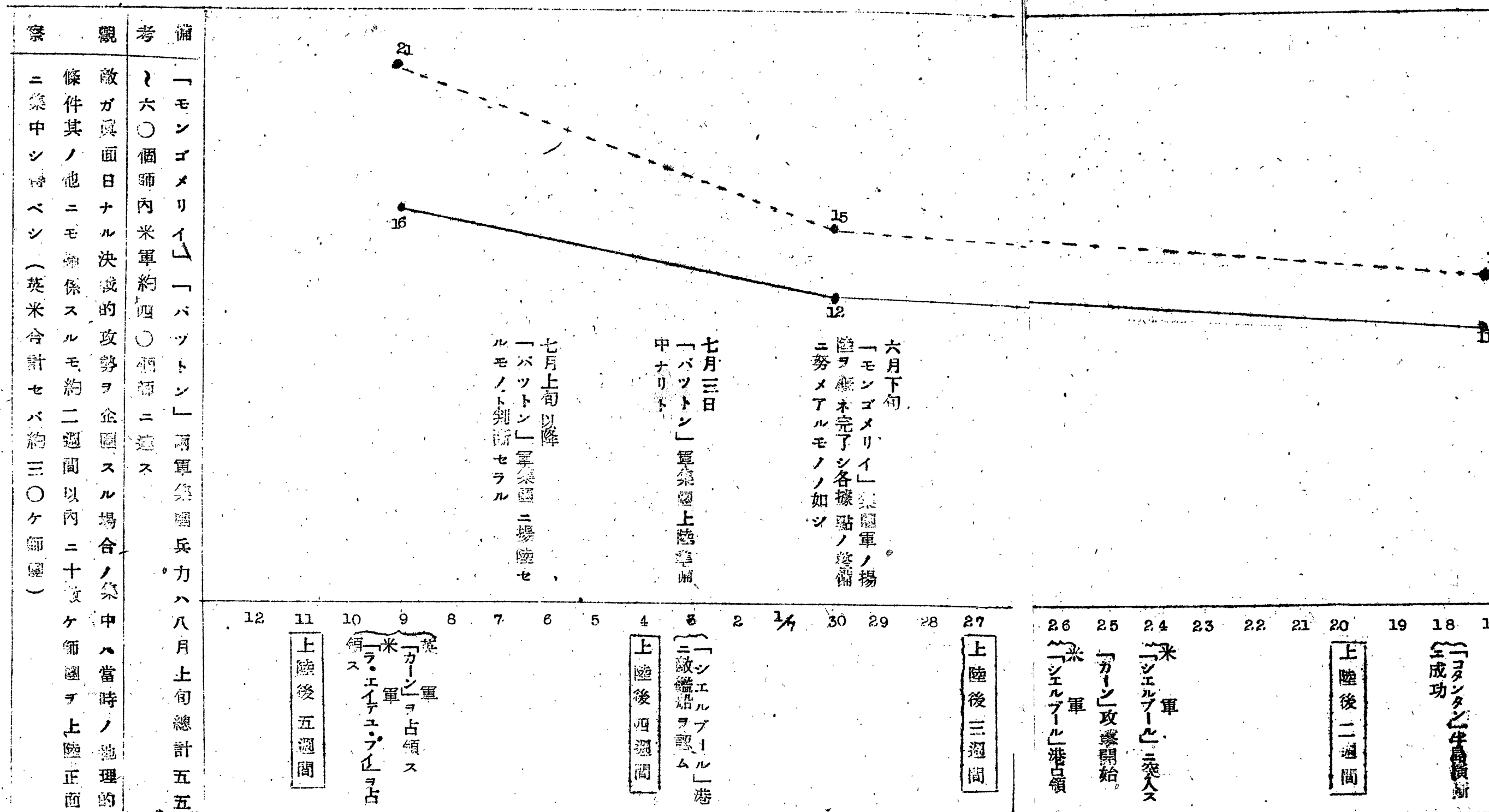
「カン」攻撃開始

「シェール」港占領

上陸後三週間

「シェール」港占領

上陸後四週間



備 考
「モンゴメリイ」「バットン」兩軍艦隊兵力ハ八月上旬總計五五
〇個師内米軍約四〇個師ニ達ス

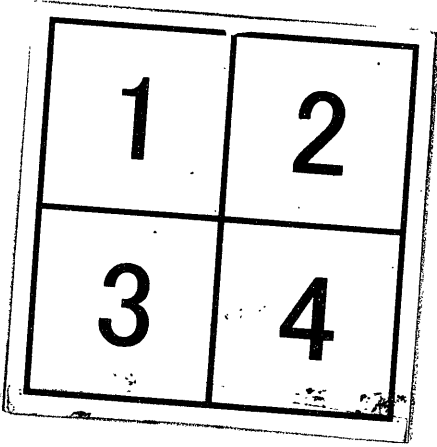
観 察
敵ガ真面日ナル決戦的攻勢ヲ企圖スル場合ノ集中ハ當時ノ地理的
條件其ノ他ニモ關係スルモ約二週間以内ニ十數ヶ師團ヲ上陸正面
ニ集中シ得ベシ（英米合計セバ約三〇ヶ師團）



情
第
六
號

1025

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	「レイテ」湾進入輸送船 推定隻数及屯数
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

1026
1027
1028
1029

レイテ湾進入敵輸送船推定隻数及屯数

觀察

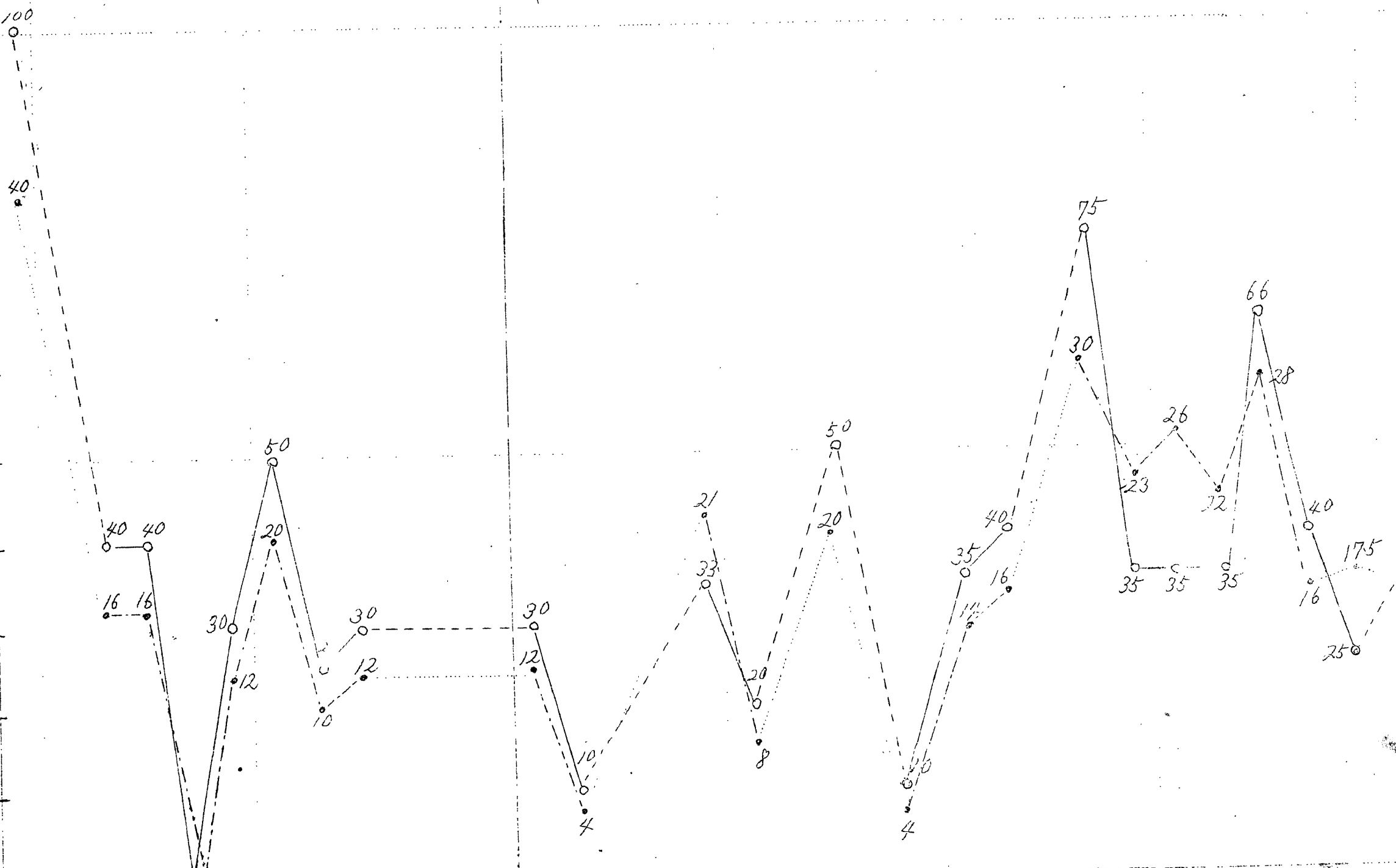
約二〇万トナリ、
南支那方面に陸上艦隊は約三〇〇三五千ト、船腹ヲ使用シテ即ち
兩後戰況ノ推移ニ應ジ數ヶ師團ヲ増援戦路上ニ要ス、
敵ハレイテ上陸ニ際シ最初三ヶ師團四ヶ日後更に二ヶ師團ヲ揚

隻数
(万ト)

110
(50) 100
90
(40) 80
70
(30) 60
50
(20) 40
30
(10) 20
10

日

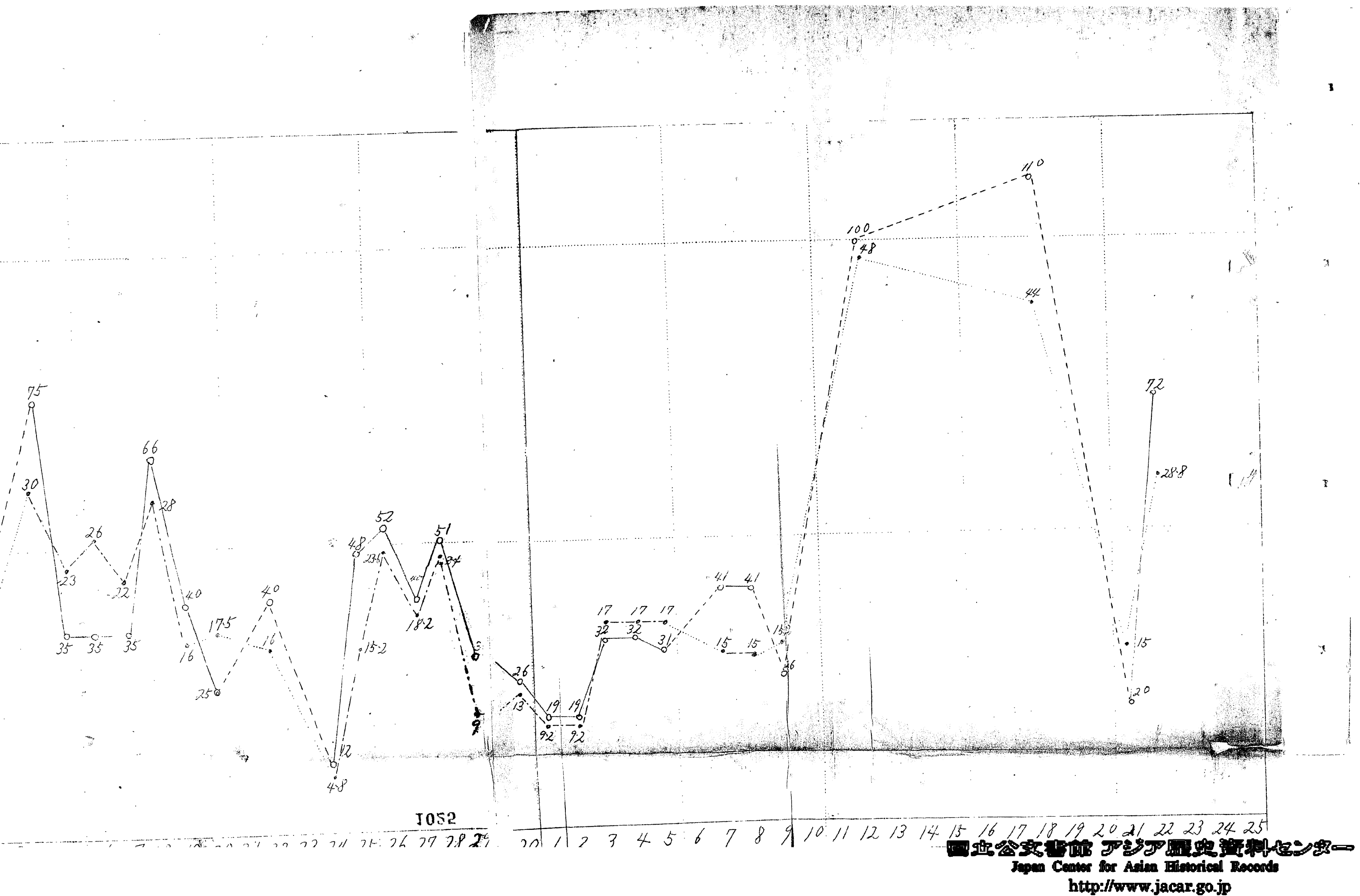
20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 1 2 3 4 5 6



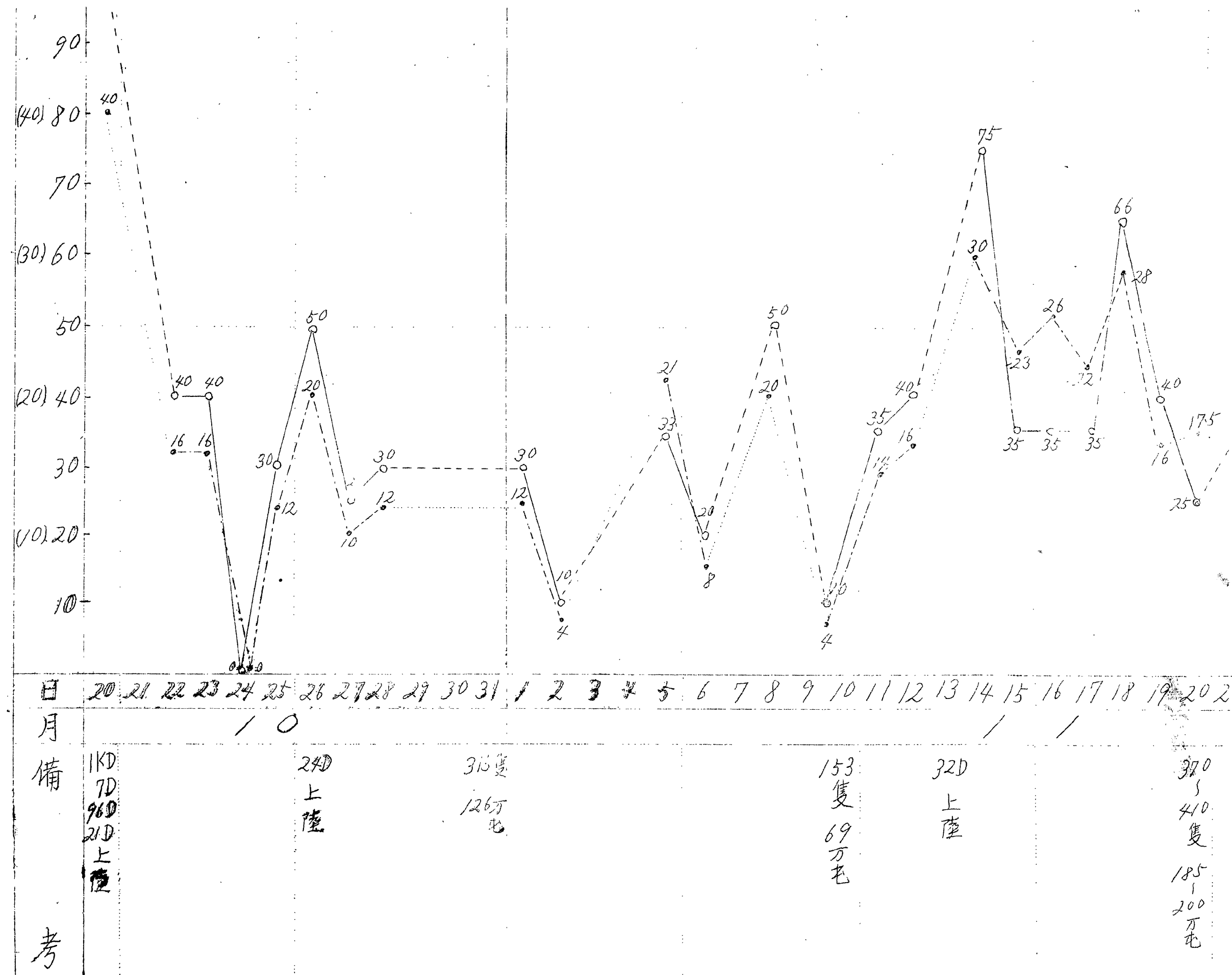
国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

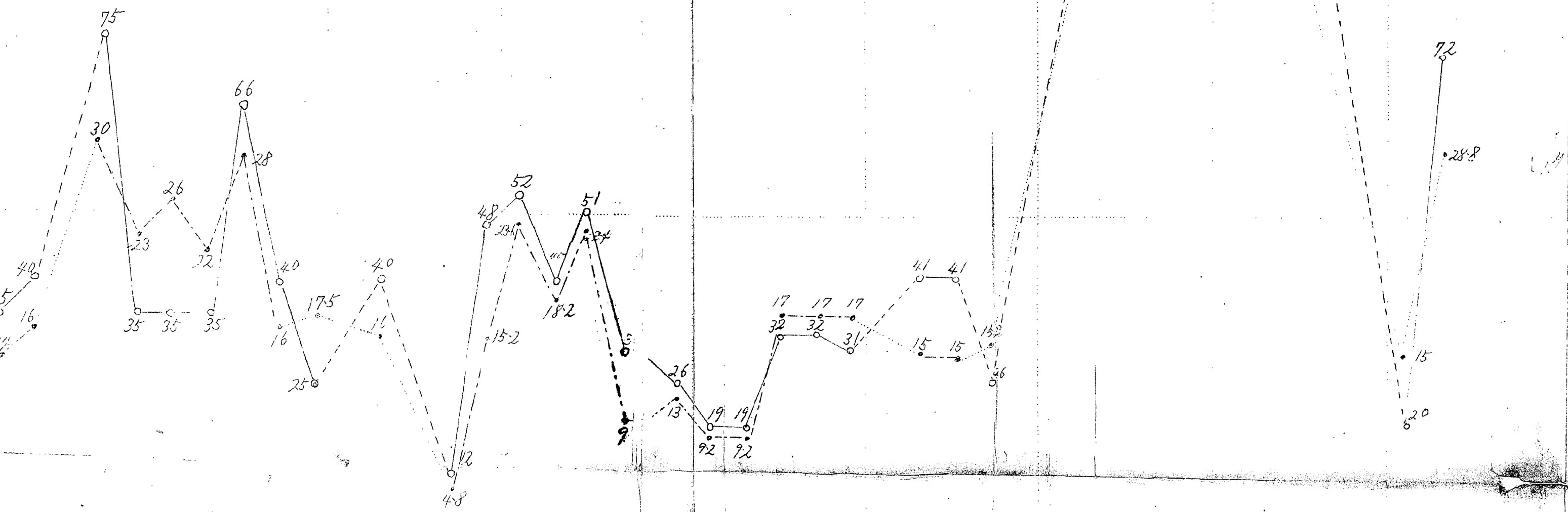
<http://www.jacar.go.jp>



國ノ一陸ニ際シ約三〇〇三万屯ノ船腹ヲ使用一ヶ師團ノ常備補給ハ一旬
 況ノ推移ニ應ジ數ヶ師團ヲ増後戦路ニ要ト莫一延路ニ使用セリ
 テレ上陸ニ際シ最初三ヶ師團四ヶ日後更ニ一ヶ師團ヲ揚陸シ橋頭堡ヲ確立シ
 乃進入敵輸送船推定隻数及屯数



日月備考	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21		
	1KD						24D					315隻										153隻			32D							370			
	7D						上陸					126万屯										69万屯			上陸							410隻			
	96D																																185		
	21D																																200		
	上陸																																万屯		



1052

1 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

320
上陸

370
410
隻
185
200
万屯



299
隻
1138
万屯

11AD
77D

231
隻
1146
万屯

十五日、ミントロ作戦部隊

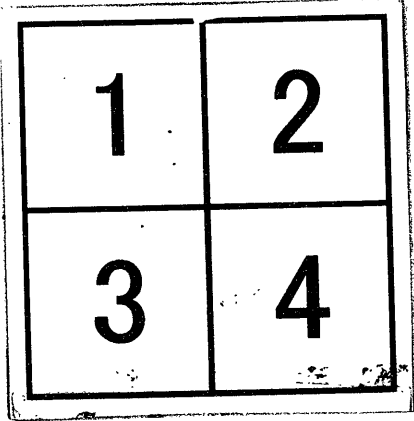
約六〇隻、船團「ミントロ」

210
隻
92
万屯

情第五號

1030

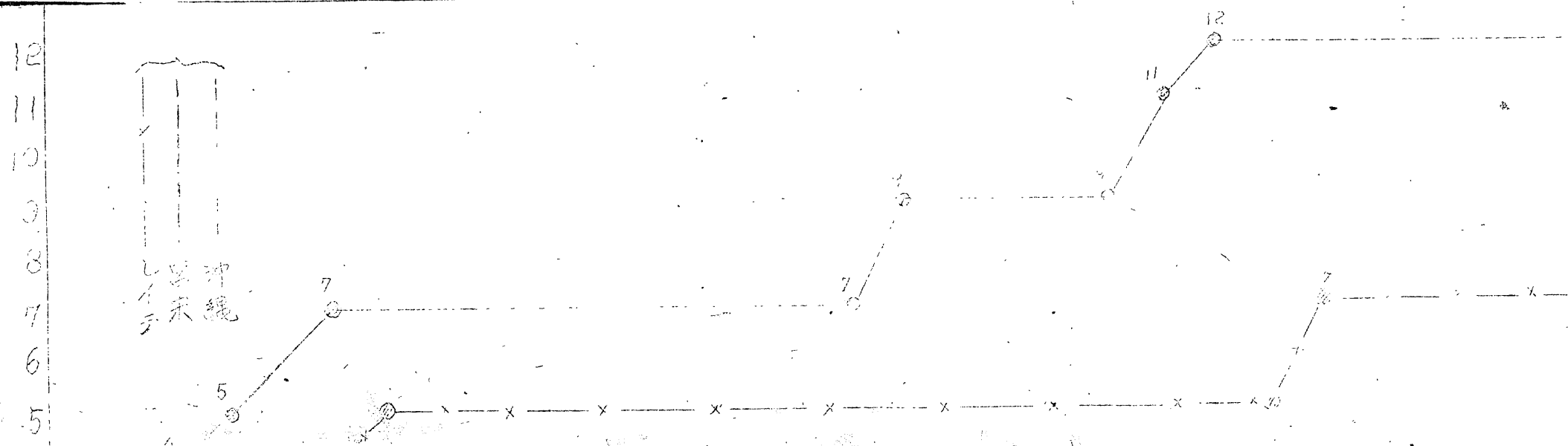
分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮 影 順 序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文 書 等 名	「イテ」呂宋沖作戦に於ける敵地上 兵力揚陸状況並進撃速度
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

1031
1032

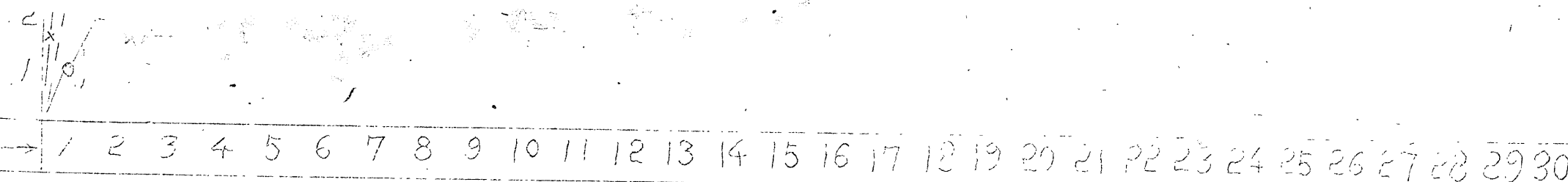
1033
1034

地上兵力増勢



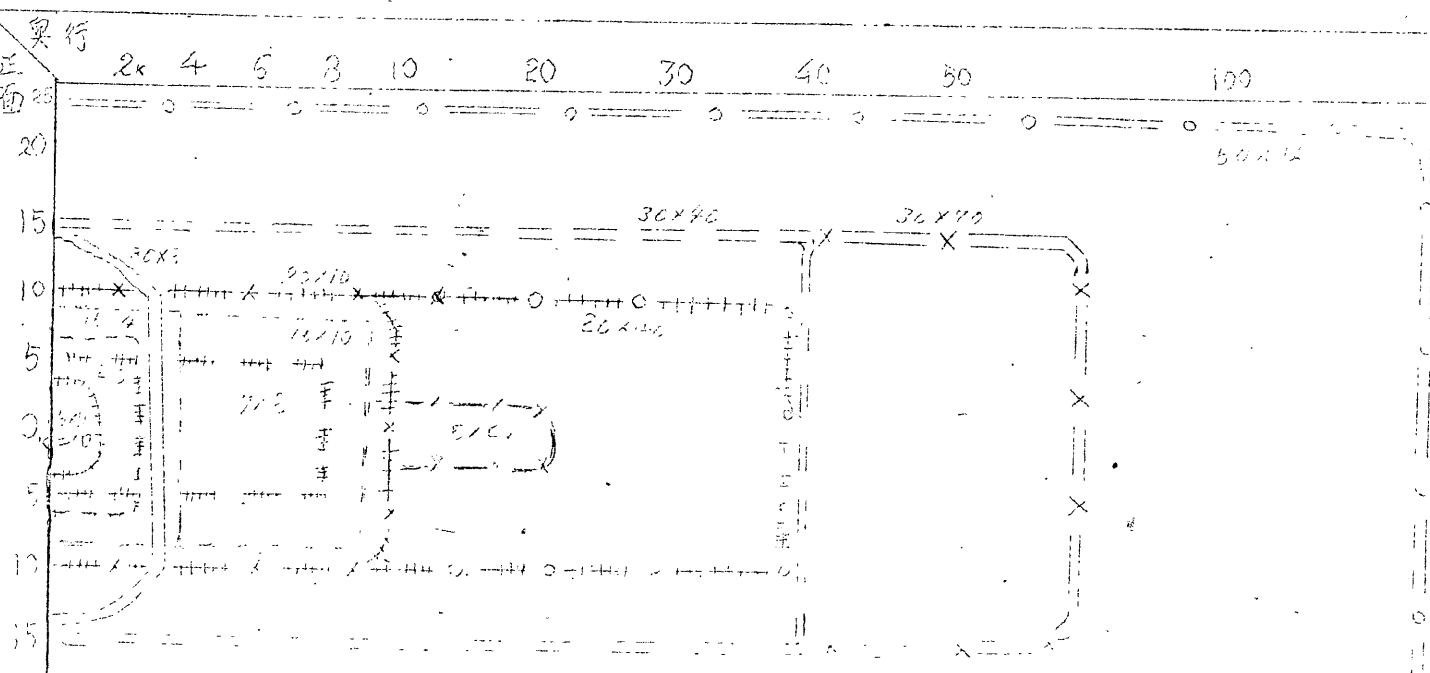
要
一、敵上陸作戦ニ
二、上陸後橋頭保固

師團数

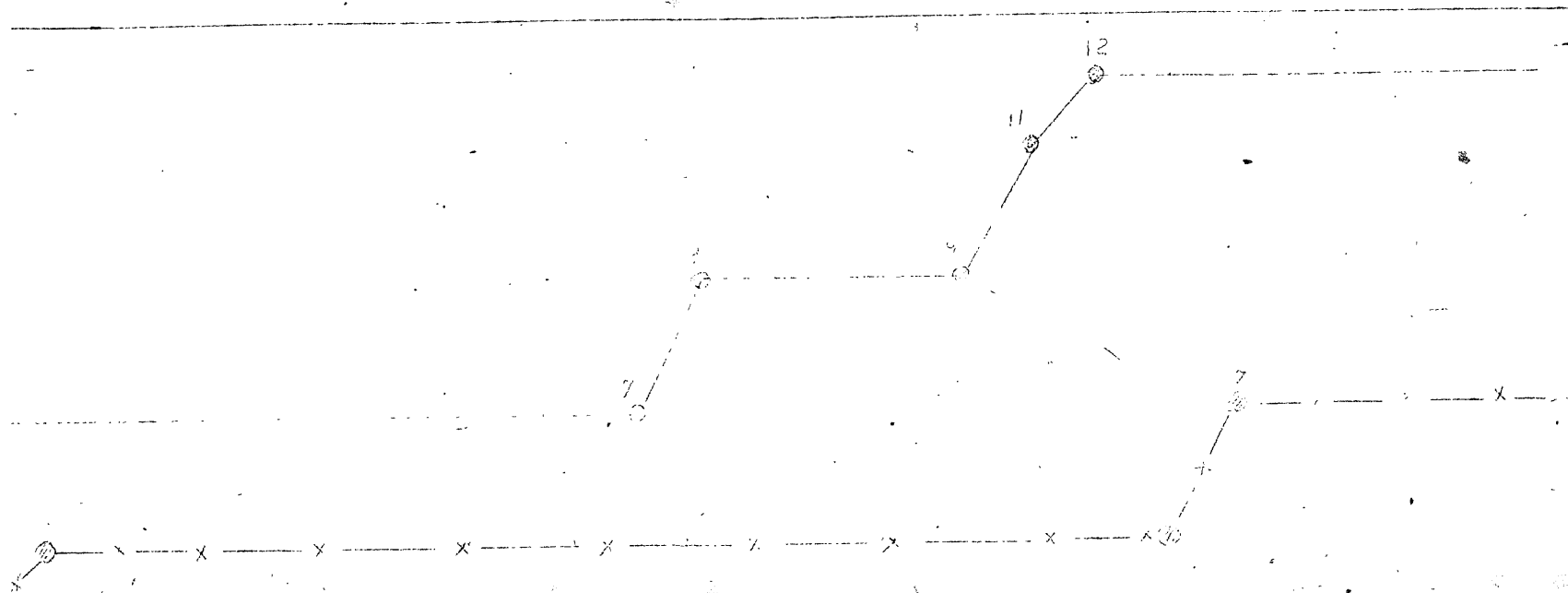


作戦ニ於テ敵地上兵力揚陸状況
一、上陸開始當日ハ敵機一週回ハテ
二、上陸後約一旬ハ常態保給ヲ經テ
三、爲吾内外要シ敵後急激ニ進展

橋頭堡進出状況

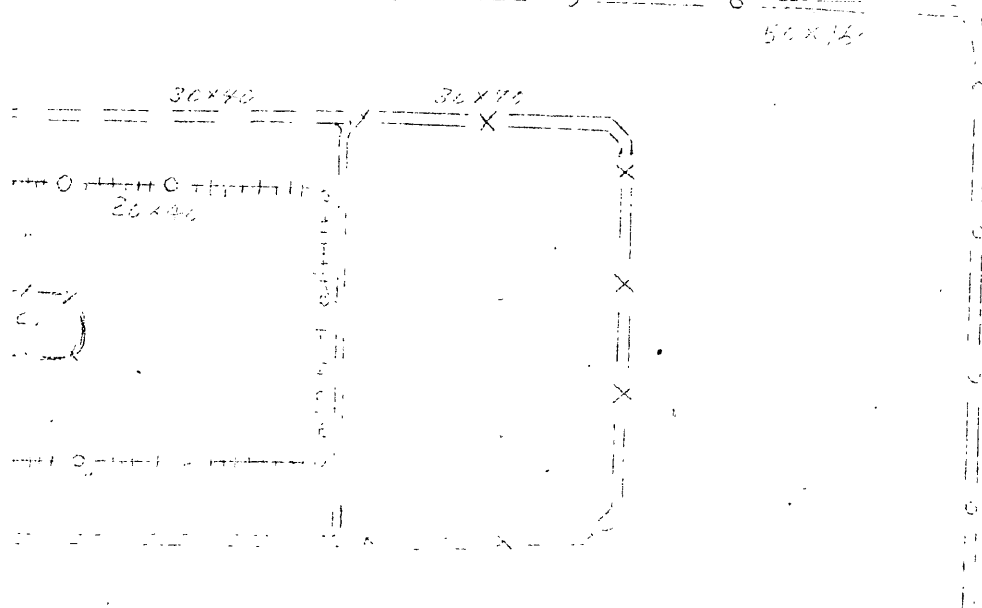


第一日	第五日	第十日	第二十日	第三十日
...	...	...	...	...



7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

20 30 40 50 100 200



第一日	第五日	第十日	第二十
...	...	...	...

要
一、敵上陸作戦ニ
作戦充當兵力
二、上陸後橋頭保衛

作戦ニ於ケル敵地上兵力揚陸状況
リテ上陸開始當日以降概テ同一タニ
陸シ爾後約一旬(常續補給)ヲ經テ第二陣
ハ爲吾々外ヲ要シ爾後急激ニ進度

巴米連

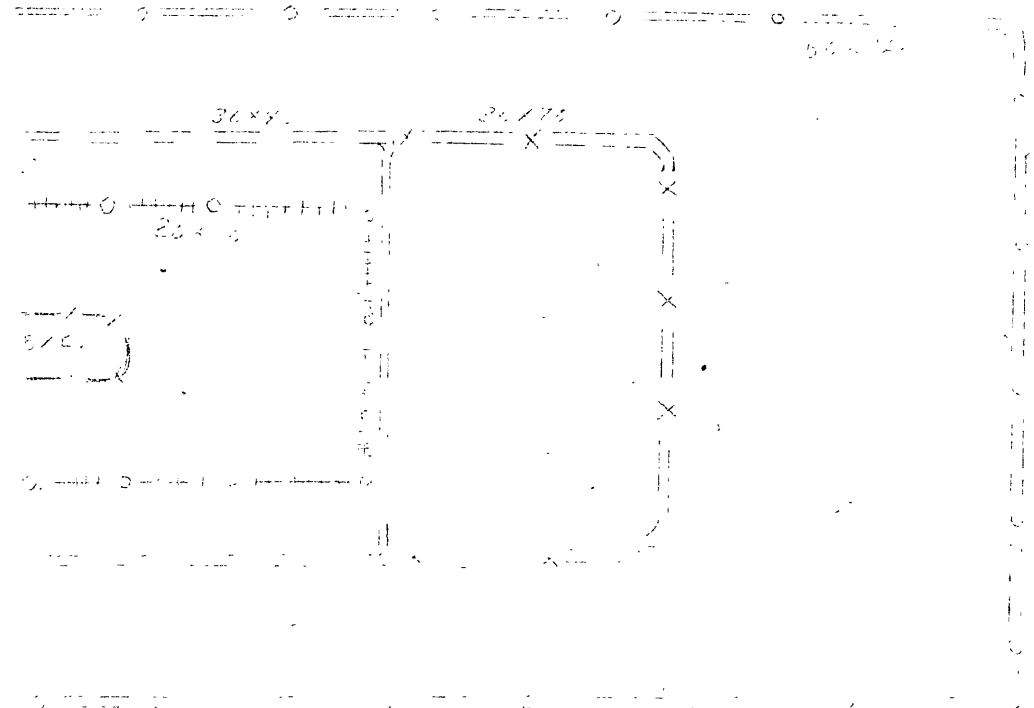
作戰ニ於テ敵地上兵ヲ揚陸狀況ハ進撃速度

三陸作戦ニ
敵兵當兵力
陸後橋頭保

リテ上陸制如當日以降概テ一同入タ
陸シ爾後約一旬(常續補給)ヲ經テ第二
期作戦使用兵力ヲ揚格ス
爲吾以外要シ爾後急激ナル進度ニ以テ進攻ス

7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

20 30 40 50 100 200



第一日	第五日	第十日	第二十日
...	...	...	...

12x3 (9x4)
7x8 (F)
30x40
16x10
6k
8k
2k

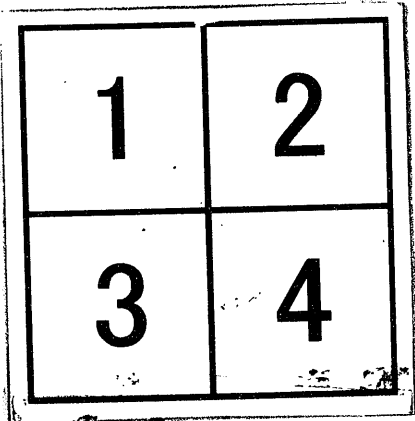
20x10
30x70
5x20
2k
5k
9k

約1/4師団
約1/4師団
0.5 ~ 1k
2 ~ 4k
約5 ~ 7k
10k

情第六號

1035

分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	比島方面敵輸送船 進入推定表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

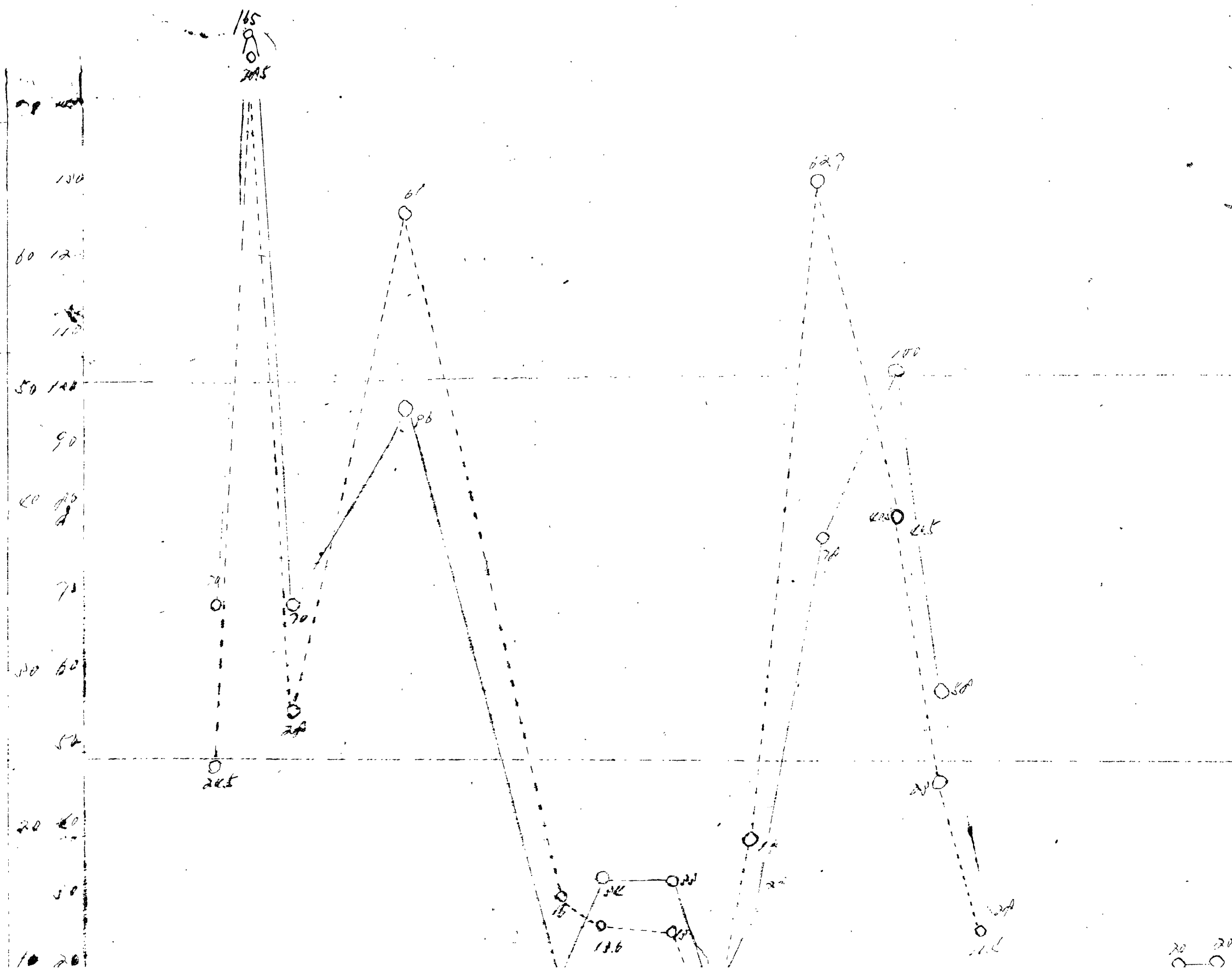
1036
1037
1038
1039

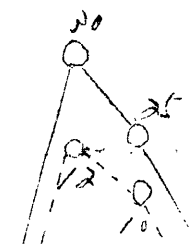
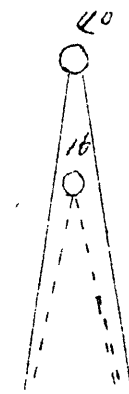
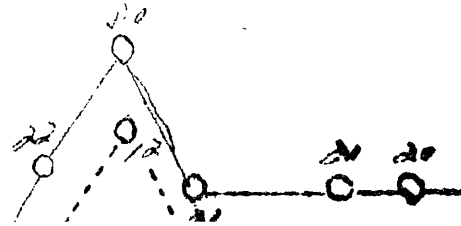
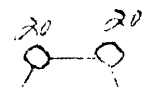
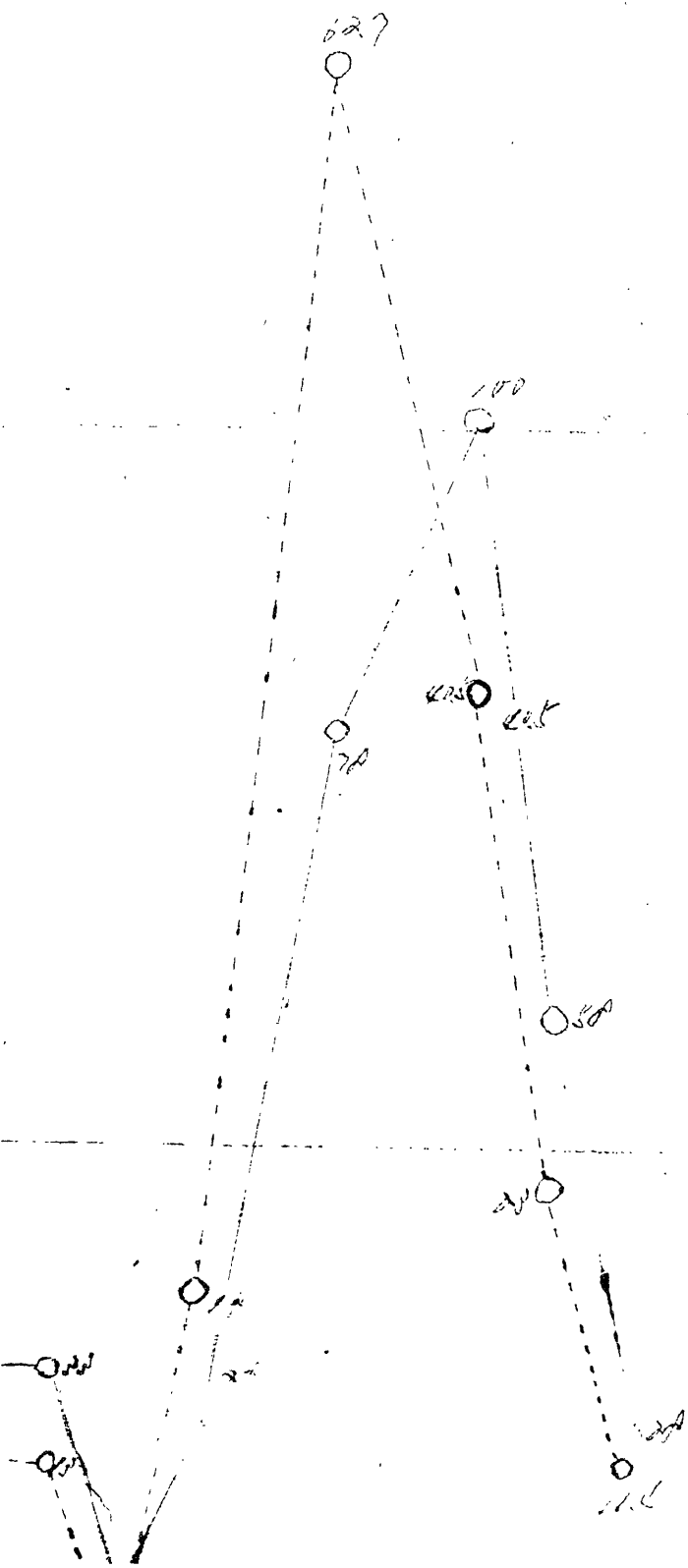
比島方面敵輸送船進入推定表

観

系

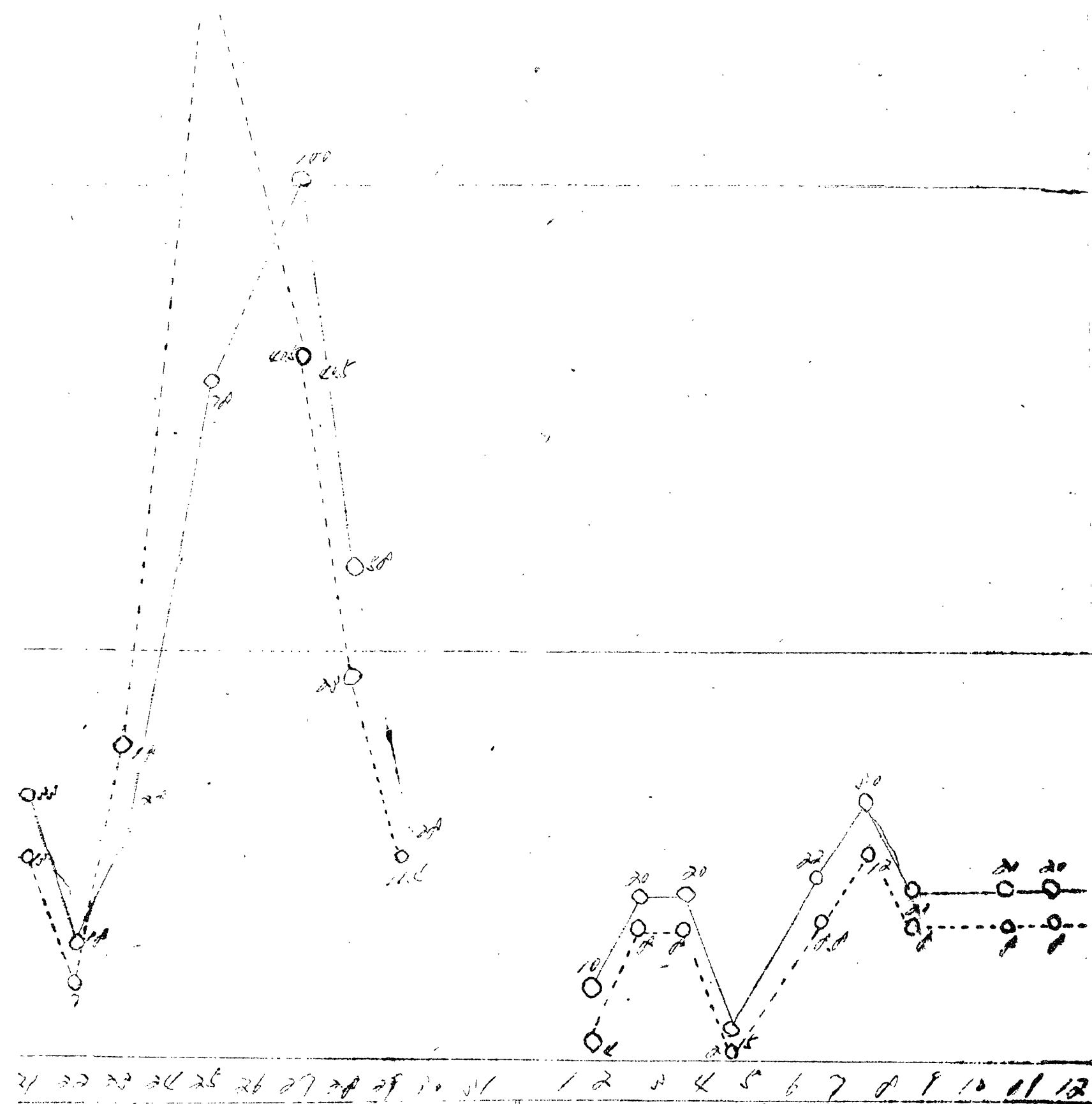
「マスブグ」ニシテカラ増強シリンガニハ常續補給ヲ受ケ夜セリ
半日後ニ師團ヲ揚陸セリニ旬後敵ハ「マニラ」及「バ」島中
リンガエン上陸ニ際シハ頭初四ヶ師團兩後一週間以内ニニヶ師團ヲ





ノニシカヲ増強シリシガミニハ常續補給ヲ要夜セリ。
ハミケ師團ヲ揚陸セリ。二旬後敵ハマニラ攻メノ爲中部（把也）トムソンレ（ダンバレス）
シ上陸ニ際シテハ頭初四ヶ師團兩後一週間以内ニシテ師團ヲ増強シマニラト攻路ノ爲

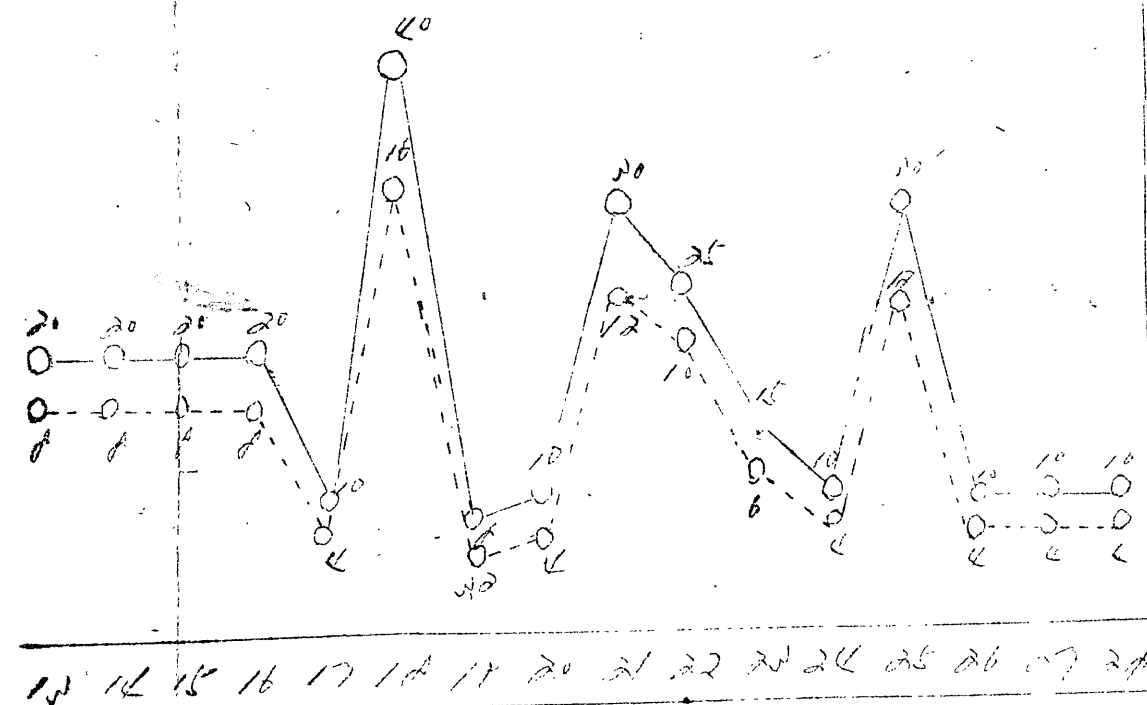




100 200
上陸 上陸

三十三度ノミナシ

三十三度ノミナシ



40 20
上陸

三十三度ノミナシ

三十三度ノミナシ

極 秘

西歐戰場ニ於ケル聯合軍ノ地上直協航空兵力概見
於昭和二十年二月

昭和二十年二月二十二日
大本營陸軍部

情
第
七
號

要 旨 聯合軍ノ地上直協航空兵力ハ平均1ヶD當リ約80機ニシテ其ノ密度
ハ100米當リ主攻勢正面ニ於テ2乃至3機助攻勢正面ニ於テ約0.5機
ナリ尙戰列部隊人員ニ對スル協力ノ度ハ150乃至250人ニ對シ1機ノ
割合ヲ示ス

- 註 1. 戰列部隊人員ハ1ヶD13,000人トシテ計算セリ
2. 戰略航空部隊ガ一時地上作戰ニ直協シタルコトアルモ本表中ニハ加味シアラズ

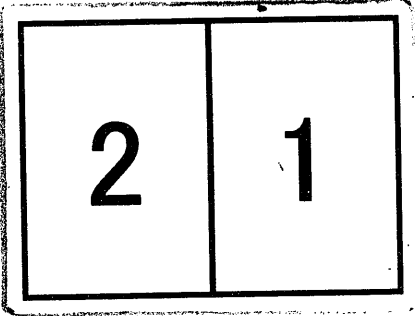
軍 別	D 數	✕ 數		擔 任 正 面		協 力 機 數		兵 力 密 度 (100米當)		
		✕	機	軍 km	1ヶD 當リ km	1ヶD 當リ 機	1機 當リ 人	人	機	
加1A	7ヶD	84Groop	640	85Groop 21	120	17	90	144	76	0.5
英2A	15ヶD	86Groop 3	800	✕	70	4 5	85	153	260	1.9
米9A	5ヶD	29T.A.F.	540	✕	20	4	110	118	325	2.7
米1A	17ヶD	9T.A.F.	660	✕	55	3	86	151	433	2.7
米3A	15 16ヶD	19T.A.F.	480	✕	100	7	52	250	186	0.8
米7A	7 11ヶD	12T.A.F.	650	✕	160	17 18	72	181	72	0.4
佛1A	7ヶD	佛 1T.A.F.	560	✕	150	18 20	80	163	65	0.4
計 平 均	73 78ヶD		5,900		675	9	79	165	144	0.9

- 備 考 1. T.A.F.—戰術航空部隊
2. ✕ (B-25. B-26等)重點方面地上部隊ニ協力ス

情
第
八
號

1041

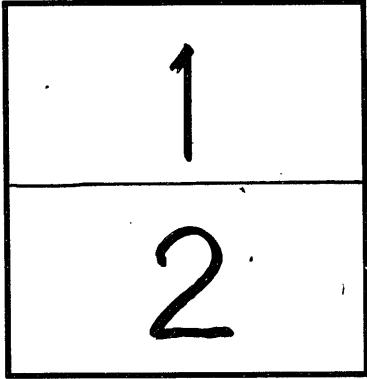
分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮 影 順 序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	北仏上陸時前後に於ける 対独空襲状況表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

四月	五月	六月	七月	八月
三三〇〇〇 一三〇五〇 (三〇)	四九四八〇 一三五〇〇 (二九)	三六三七〇 一二〇〇〇 (九)	一五四一四〇 二五〇〇〇 (一六)	二五〇〇〇 二二〇〇〇 (一五)
六〇五〇 (二九)	八七〇〇 (二九)	八〇〇〇 (六)	七〇〇〇 (三)	四〇〇〇 (三)
八四三〇 (二三)	一三二〇〇 (二九)	一一〇〇〇 (八)	一三〇〇〇 (一〇)	一二〇〇〇 (八)
八〇〇 (二)	二五二〇〇 (三〇)	二〇〇〇 (二)	一七三〇 (一)	一七〇〇 (三)
七三三〇 (二〇)	七〇五〇 (一五)	七〇〇〇 (五)	三〇〇〇 (二)	二〇〇〇 (一)
二二〇〇 (三)	二二〇〇 (三)	九六三七〇 (七〇)	一〇三一九〇 (六六)	一〇六〇〇〇 (七〇)

1043 1042 1041

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	ルソン作戦に於ける 敵上陸船団行動要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

1043
1044
1045

ルソン 作戦ニ於ケル 敵上陸船団行動要図



